

まえがき

私のビジネス上のお取引先様に、私がどのようなことを考え、どのような日常を送っているのか、それとなく知っていただくことを目的として、平成二十八年七月から、自分の備忘録のつもりでブログを書き始めました。

驚いたことに、初投稿からの半年間で数社から出版依頼のオファーがございました。

当初、書籍出版など時期尚早とお断りいたしましたが、私自身へ興味をお持ちいただいたすべての方へ、感謝とお礼を込めたメッセージになればと考え、今回決断しました。

テーマは、『起業』。

たった一度の人生、サラリーマンとして人生を全うするか、または、経営者としてリスクを取りながらもやりたいことに挑戦して、成功者を目指すか。

誰もが一度は、悩むテーマです。

就職し、年々給料が上がリ、役職がついて出世し、そのうち家庭を持って、住宅ローンを抱えてしまつたら、なおさらスピノフすることは難しくなることでしょう。

次のボーナスをもらつたら考えよう、などと言い始めたら、まず起業はできません。

人間ですから、楽な生活は捨てがたく、できれば今の給料をもらいながら、新しいことを始めて徐々に乗り換えていくという方向に考えがちです。

私自身、サラリーマン時代には決断できずにずるずると過ごし、結局最悪の状況での船出となつてしまいました。

よくある起業関係の書籍では、起業するための心構えや、起業してから具体的にどのようなことを実践するかということが多く書かれています。

本書では、起業したあと、生活がどのように一変するかということにフォーカスして、私自身が日々体験している自由で充実した生き方と、素晴らしい友人たちのエピソードをご紹介します。

自由な生き方は、決して楽に手に入りません。

すべてのリスクを取りながらの真剣勝負の毎日。

しかし、目標を達成したときの充実感、サラリーマン時代には決して感じることはできませんでした。自分で設定した目標に向かって、自分のペースとやり方で、どんなことでもできる楽しさは経営者の特権です。

もちろん、サラリーマンの生き方をすべて否定するものではありません。人には向き不向きというものがございますので。

サラリーマン生活にどうしても馴染めなかつた自身の反省を踏まえながら、他人のために働くのではなく、自分のために稼ぐ楽しさをお教えしたいと思います。

本書では、難しい経済用語や学術的な表現はあえて避けました。

私自身、経済学者ではないのでよくわかりません。

難しい理屈にとらわれることなく、まずはやってみましょう。

本書が、これから起業を目指す皆さんへの指針となれば幸いに存じます。